

第4回浜田市立学校統合計画審議会議事録

日 時：平成30年9月14日（金） 14：00～16：32

場 所：浜田市役所北分庁舎2階会議室1

議事

- 1 会長あいさつ
- 2 協議事項
- 3 その他

1 会長あいさつ

事務局

ただいまより、第4回目となる浜田市立学校統合審議会を開催させていただきます。

現時点での出席委員が9人ということで委員の半数の7名以上の出席があるということで、この会議が成立していることを報告させていただきます。

それでは会長にごあいさついただき、続いて議事進行をお願いします。

会 長

皆様こんにちは。最近雨が多くなり秋らしさを感じる。委員方にはお忙しい中、14時の開催ということでお出かけいただきありがとうございます。

前回までの中身を確認させていただきます。前々回、7月5日の第2回審議会において雲雀丘小学校については、原井小学校へ統合ということ、そして美川小学校については、複合施設も踏まえて建て替えをするということで、意思統一をしていただいた。

それから、前回8月9日の第3回審議会において石見小学校については、現地付近での建て替えを、そして松原小学校については、次期計画時に検討するという方向で結論付けたところである。前回の閉会のところで申したが、本日第4回の審議会においては、第二中学校と第四中学校の2校について協議をお願いしたいと思う。

また、審議時間にもよるが、諮問を受けた項目についても整理を行いたいと考えているのでよろしくお願ひし、開会のあいさつとさせていただきます。

2 協議事項

会 長

本日も前回と同様に、委員一人ひとりにご意見を伺い、このことを受けて、全体協議に入りたいと思うのでよろしくお願いする。

では最初に、第二中学校についてご意見をいただきたいと思うが、事務局から説明することがあればお願いします。

事務局

第2回の時にお配りしている資料5学校統合計画に関する協議の参考資料を見ていただきたい。第二中学校については現在149人の生徒がおり、施設については劣化度が高いという状況である。それから、事務局としての協議の参考資料の意見として、1つ目は廃校として第一中学校に編入するという考え方。2つ目は、単独建て替えをするという考え方がある。

本日お配りしたA3資料2-4の地図は、松原小学校区の町の単位で青線を引いたものである。これを見ながら聞いていただきたい。

(1)の廃校として第一中学校へ編入するという場合には、松原小学校及び原井小学校の、第一中学校もしくは第二中学校へ行くという校区の問題はクリアできている。外ノ浦町、松原町、殿町が松原小学校から第二中学校へ行っている部分があるが、それが第一中学校へ移行されれば、解決される。それから、原井小学校の紺屋町については、第一中学校へ行っているが、本来原井小学校は第二中学校区であり、統合となれば第一中学校へ行くということで、その校区の問題は解決すると考えている。しかし、第二中学校の約150人の生徒が、第一中学校へ行くことは施設的に可能かどうかということが、気になる場所である。今は4クラス、もしくは5クラスであるが23、24年前くらいは6クラスあったということがあるため、150人くらいが第一中学校に行ったとしても施設的には何とか入れるかという様な感じもしている。

それから(2)単独建て替えの場合には、前回の審議会において、松原小学校については次期計画時に検討するということを受け、考え方の原則の「同一小学校の児童は、同一中学校へ進学する。」を満たすには、まず小学校の校区を変更しない場合には、松原小学校の外ノ浦町、松原町、殿町は第二中学校から第一中学校へ変わらなければならない。それから、中学校区を優先に考えた場合には、松原小学校の外ノ浦町、松原町、殿町は、原井小学校へ変わった上で、第二中学校に行くということにしないと、条件が満たされないことになる。ただ、地図を見ていただくと、松原小学校が右肩にあるが、浅井町に松原小学校がある。そのすぐ西側に松原町があり、その下側から川の南側にある原井小学校に向かって広いエリアに殿町が

ある。松原町もしくは殿町の、松原町のこういった近いところから原井小学校へ通うということが起こるといことと、それから松原小学校という名前がありながら、松原町の子どもが原井小学校へ行くという様な現象が起きてしまうということもあるため、考え方の原則はあるものの、校区の見直しは行わないという様な考え方もあるかと思っている。

会 長

ありがとうございます。資料について説明があった。資料5にある様に、第二中学校は生徒が149人ということである。廃校として第一中学校に編入するのか、あるいは、単独建て替えをするのかということであるが、これについてそれぞれからご意見をいただきたいと思うし、また今、事務局から説明があった内容を踏まえて、全体協議に入っていきたいと思う。今回も同様に、委員方から順番にご意見をいただいて全体協議へ進めていく。

それでは順番にお願いします。

委 員

私は原井小学校の学校支援員として勤めている。本来であれば、松原小学校区であると思われる児童も数名来ている。校区外であっても、もう目と鼻の先に学校が見えるため、殿町辺りからは原井小学校に通う児童が多い様に見受けられる。また、中学校に上がるにあたり、第二中学校が良いということで、原井小学校を選ばれたのであろうと思う。また、あまり遠くなく家から学校に通いやすいという保護者の判断もあると思う。

松原小学校は、昔は松原町にあったが今は浅井町にあるということで、校区の見直しをするべきであると思う。ちょうど第二中学校を建て替えるかどうかというところで、第一中学校と第二中学校でそれぞれ校区を再編し、スマートに小学校区から中学校区に上られる様な道筋ができると良いかと思う。

会 長

今、委員からお考えをいただいたが、校区の関係の見直しが必要であるということである。

委 員

第二中学校はかなり建物が傷んでいると聞いている。全体的に見直しをするのであれば、校区の見直しも視野に入れていかなければならないし、第二中学校から第一中学校に行くことになるとかなりの距離がある。雲雀丘小学校区とか松原小学校区の生徒が歩いていくのはかなりしんどいのではと思う。自転車を使うこともできるが、距離が遠くなるということで、通学路の間で何か危険があるのではとか、見えない箇所、目の届かない箇所では何かあるのではと考えた時には、今の第二中学校の場所が通学距離で平均的に近いとこ

ろになると思う。

ただ、生徒数も 149 人ということで、この先を見ると 160 人くらいの見通しになっているが、施設的に受け入れが難しければ、半分くらいずつ、第三中学校と第一中学校に編入するという事も考えられる。その時には第一中学校の場所を見直す必要があるのではと思う。

話が戻るが、石見小学校が移動した場合に建て直しができないということであれば、今の第二中学校の場所に石見小学校を移すという案も考えられる。仮にであるが、浜田中央中学校、浜田東中学校、浜田西中学校という形で完全に分けてしまった方が、先の人口減少のことも考えるのであればその 3 つに分ける案も考えられる。大きな経費がかかるのであれば、浜田市として見直しをしていかなければいけないところもあると思う。学校間の距離が中途半端な場所にあるため、第一中学校も第二中学校もなくして新しい中央中学校を建てるということの方が良いのかと思う。それが難しいのであれば校区の見直しをして、今後松原小学校の児童の人数が増えてくるため、そうした場合松原小学校の児童は全員第二中学校に行くことと決めてしまう。そうすると、雲雀丘小学校と原井小学校区の児童と合わせて 400 人近くになるため、どこかで区切らなければならない。その時に校区の見直しをして、松原町と殿町の児童については第二中学校に進級してもらおうという方法でいけば、おそらく、200 人か 300 人くらいの生徒数であるため、昔の第一中学校も 4 クラスずつくらいであったので、部屋数が足りないということもない。現状の建物も活かしていくのであれば、そういった校区の見直しをした方が良いのではと思う。

ただ、お金の関係があるのならどうかと思う。第二中学校の廃校は地域のことがあるので考えられないが、その案も含めて検討しても良いのでは思う。

会 長

ありがとうございました。校区の見直しを視野に入れてということである。児童数のことも考えて、中央中学校の建設をという新しい考えである。いずれにしても校区の変更ということになれば、やはり通学距離の問題が出てくる。色々問題や課題が見えてくるわけであるが、校区の見直しを視野にということ強く意見として出された。

委 員

現在、第二中学校の生徒が 150 人ということで、第一中学校が 388 人であるため、150 人全員が第一中学校へ行ったら人数が多くなる

事務局
委員
事務局

ということで、増築をされるということであると思うのだが、この人数がどうであるかと思う。

校区のことを考えて、第一中学校だけでなく第三中学校へ編入ということもあるのか。

可能性はある。

その時には第三中学校も増築が必要か。

雲雀丘小学校は原井小学校へ統合ということが前提になっているため、今度は原井小学校が分かれるということが出てくることになる。

委員

単独の建て替えだと予算が 25 億円とあるが、私は単独の建て替えをした方が良いと思う。

会長

ありがとうございます。先ほど委員から色々とお話があったが、単独の建て替えが良いというご意見であった。

委員

私は旭地区の者であるため、浜田市街地の距離的なことや校区のことがイメージできないところではあるが、例えば、第二中学校が廃校になり、第一中学校に編入となった時に、やはりすごく遠いのではと思う。それから第二中学校区の端から第一中学校に通うとなった時には、何で目の前に第三中学校があるのに行けないのかということにならないかなと思う。距離が離れている分、本当に通えるのかと思う。先ほど委員が言われた様に、それこそ今後のことを見越して、例えば第一中学校と第二中学校の統合の様な形で、今の第一中学校と第二中学校の間辺りに建設するということもありなのではと思う。しかし、以前も用地がないという話があったため、それは難しいかと思うが、通うのには遠いと感じる。

会長

ありがとうございました。先ほどの委員からの意見では、第一中学校への編入は距離が遠くなるということであった。

事務局

学校間の距離で言えば、第一中学校と第二中学校が 4.9 キロメートルとなる。第二中学校は校区のほぼ東端であるため、若干それよりも東側の生徒たちがいるが、4.9 キロメートルは通うには遠いかということがあるため、その場合はまた、スクールバスを出すということもあり得る。

例えば第一中学校で言えば、金城との境である、後野町、佐野町、宇津井地区はスクールバスがないという状況である。路線バスを使っている。

委員
事務局

中学校のスクールバスは中々聞かない。

遠距離通学は、小学校は 4 キロメートル、中学校は 6 キロメート

ルである。

事務局 6 キロメートルを超える子どもについては補助が出る。中学生はスクールバスが出ないが、路線バスを使ってもらっている。

委員 中々6 キロメートル以上はない。自転車もあるためバスに乗る子ども少なく、人数に限られる。10 人、20 人いればスクールバスも考えられるが、1 人、2 人のためにスクールバスは出せないと思う。

事務局 国府地区で言えば、浜田東中学校の生徒のうち宇野地区や有福地区から通う生徒はバスで通っている。

委員 校区の見直しはすべきである。それから第二中学校であるが、廃校はないと思う。これは是非残していただいて、建て替える方向で検討していただきたいと思う。第二中学校が 149 人であるため学校としては少人数であり、減ったり増えたりはあるが単独でやっていけると思う。第四中学校は問題だが、第二中学校は単独で建て替えが良いと思う。

会長 ありがとうございます。今までのところでは廃校には反対で、第二中学校単独で建て替えすべきという意見であった。

委員 第二中学校を廃校にして、第一中学校へ統合というのは難しいと思う。現在 150 人くらいで、増えたとしても 200 人であり、校舎を建て替えるとする、かなりコンパクトなものになるであろうということで、現地建て替えでも広さは適切であると思う。

以前にも話が出たが、松原小学校や第二中学校は、校舎を建築する時に場所を変えたということで、現在ミスマッチが起こっているということである。1 番悪いことになっているのは松原小学校であると思うが、第一中学校と第二中学校に分かれて進学するということがある。ただ、私は思うのだが、同一小学校から同一中学校に行かなければいけないことについて、それが子どもにとって教育上弊害があるということであれば、それは解消しなければならないと思う。現在どの様な状況になっているのか分からないが、松原小学校についてはどうであろうかを感じる。

原井小学校の紺屋町というのは少し弊害があると思う。実は私の妻が、昔紺屋町に住んでいたが、1 人だけ第一中学校に行き、とても寂しい思いをしたそうだ。慣れるまでポツンと 1 人ぼっちになるとか、あるいは 2、3 人になるとか、2、3 人いても複数のクラスに 1 人ずつ分かれてしまうといったことがある。紺屋町だけは何とかした方が良く思う。

松原小学校については、同一集団ですっと行くのが良いのかとい

- うことがある。例えば、6年生で色々な人間関係のしがらみがあった時に、中学校が分かれることによって良い効果が出るという様なこともある。一長一短あると思うが、色々なことを考えると現地改築をし、残すということが良いのではと思う。
- 会 長 ありがとうございます。色々なご意見をいただいたわけであるが、特に先ほど委員が言われた様に、同一小学校から同一中学校への行くのが良いのか悪いのかについて色々な考え方があるかと思う。その様なことも検討しながら進んでいくべきかと考えているところである。
- 委 員 今回からの参加になるため、適切な回答ができるか分からないが、皆様に教えていただきながら今、お伺いしたことと、資料を見て考えを述べさせていただく。
- 確認させていただきたいのだが、第二中学校は劣化となっていたが、劣化は老朽化よりも程度が軽いということで、必ずしも建て替えが必須ということではないか。
- 事務局 軽いというか、耐用年数は来ていないという状況の中で、かなり劣化が進んでいるということである。
- 委 員 第二中学校の方向性としては、建て替えをせずに現状のままということもあり得るのか。
- 事務局 あり得なくはないが、松原小学校の様に次の計画に送るということは難しいと思う。本来、松原小学校もどうなのかという様な思いもある。
- 委 員 校区の考え方の原則について、先ほどご意見があったが、私も同じ意見である。必ずしも同じ小学校だから同じ中学校にということ原則にするというよりは、これまで意見が出た様に、子ども側にどういう利益があるのか、例えば校区が小学校と中学校で異なっても、それによって通う距離が短くなったり、地域の子どもで1人だけ残されるというのは非常に問題にはなるが、そうではなくある程度その地域で区切ることができるのであれば、このこと自体を原則にするよりは、子どもの通学に不利益がない様にすることが、今の状況を伺っていると必要かと思う。
- それからお伺いしたいのだが、第二中学校を編入するといった場合、これまでの中学校や小学校の子どもの数が何名以上であれば、編入、統合するという様な、例えば100人以上であれば統合しないという基準はこれまでの議論で出てきているのか。
- 事務局 数的な基準はない。

委員

それは例えば、500人であっても統合という結果になれば統合するということか。

事務局

そういうことになる。

委員

この結果というのを市民に公開していくと思うが、このケースではこうしたといった場合に、ある程度の基準を、第三者が見ても分かる様に出すということが必要かと思う。私の中で人数というのは非常に大きな要因であると思う。149人も異動させて統合するよりは、現状のまま、単独建て替えという意見に賛同する。

それから資料2-4について、先ほどから何度も通学距離について議論されているが、子どもたちがどこに住んでいるのか、世帯がどこにあるのかということについて、住民単位であるとか人口が集まっているところの分布図の様な形で示すものがあるのだが、そういった資料があると、実際にこの統合をした時に不利益にある子どもたちがこれだけこの地域に多いため、こういう形で校区を整備した方が良いとか、より具体的な話ができると思う。どのくらい遠い区間を通っている子どもたちの数があるのかが分からないと、中々その話をするのは難しいと思う。

事務局

そういった分布図の様なものは現段階では用意していない。子どもの数がどこの地区、どこの家にいるというのが、例えば中学校であれば3年の間にぐるぐると変わる。現状のものということであれば、作ることができるかもしれない。

委員

例えば、この校区というのはものすごく広い。ここに絶対に通学する人たちが住んでいるということではなくて、この中で大体この辺りに集中しているであるとか、おそらく小学校付近に多いと思うが集中しているのであれば、その中で議論することができるかと思うのだが。

事務局

どこの中学校区もそうであるが、おおまかに沿岸部に人が多く、山間部に人が少ないという状況があるのは間違いないと思う、ということぐらいしか今は言えない。

委員

承知した。

会長

ありがとうございました。やはり現状で単独建て替えが望ましいという意見であった。

委員

私も弥栄町の者であるので浜田の状況がはっきり把握できていない。以前も言ったが、財政的に言えば苦しいと思うが、生徒が今150人で、現状の推計だと極端に減るという見込みがないということであれば、第二中学校を廃校にするのは難しいという感じがする

会 長

ということで、財政的には厳しいが私も単独で建て替えという思いがする。

それぞれの思いや意見を伺ったところである。私も 149 人という生徒数であるため、現状での建て替えが良いのではないかと感じている。

それぞれのご意見、あるいは校区の見直しということについてお話しいただいた。委員方の協議を踏まえて、全体のまとめに入りたいと思う。

委員方からご意見をいただいたが、事務局からお考えがあれば先にお願ひする。

事務局

先ほど通学距離のことについて、他の委員が言われたこの区域の地図についてであるが、これを見ていただくと、第一中学校区は非常に広い。山間部は生徒数が少ないが、ただ後野町、佐野町辺りには生徒がいる。緑の第二中学校区であるがこれはかなり狭い。そうしてみた時に、第一中学校区と第二中学校区で距離がどうなのかということがあるが、第二中学校区の生徒が第一中学校区に行くという時にはそこまで離れていない。逆に第三中学校区とか第四中学校区、浜田東中学校区の方が第二中学校区よりはるかに広い。そうした面では、通学距離が 6 キロメートル以上になるということは、まずないという感じである。

会 長

今、事務局からお話しいただいた。このことについて、委員方と協議に入りたいと思う。何か意見があるか。

事務局

平成 29 年度第 1 回目の資料 2-2 で、文部科学省が平成 27 年 1 月に示している公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引がある。

事務局

基準で言うとこの中の 6 ページに、2 章適正規模・適正配置についてということで、(1) 学校規模の適正化ということが法令上、学校規模の標準は学級数に設定されており、小・中学校ともに「12 学級以上 18 学級以下」が標準ということが示されている。基準ということで言えばこの「12 学級以上 18 学級以下」が当てはまる。これより少ないとか多いとかとなると、学校の規模としては適正ではないとなっている。

事務局

現在の第二中学校は 2 クラスずつの 6 学年である。

事務局

補足すると、基準としては「12 学級以上 18 学級以下」とあるが、同資料の 9 ページに、望ましい学級数の考え方について記載があり、基準はあるものの、少なくともこのくらいのクラスがあった方が良

ということが書かれている。小学校で、1 学年 1 学級あるいは 2 学級以上あることが望ましく、中学校では学年 2 学級以上あるいは全学年合計で 9 学級以上が望ましいとなっている。

委 員

ここを最低ラインとすると、第二中学校については最低ラインをクリアしている。第一中学校と第三中学校については最低ラインをクリアしているのか。

事務局

第一中学校は学年によって違うが、4 から 5 クラスである。第三中学校も学年によって違うが 3 から 4 クラスの全部で 10 クラスである。

委 員

この基準でいくと、第四中学校は 1 学年 1 学級ずつであるのでやはり少ない。文部科学省の基準から考えると、統合が望ましいということになる。

事務局

小学校の議論についてもこの基準を参考にされたのか。

複式学級の学校をどうするかということ議論した時に、今回老朽化で出ている美川小学校以外の学校については、地理的に他の学校が遠いであるとか、校舎の耐用年数がまだあるということで、現状維持という結論になっている。

委 員

承知した。

委 員

前にもお話したが、ここでどうこうするわけではなく、道筋を示せば良いということであった。今、そういったものを出すためには、色々な材料がないと答えが出し辛いところがあるし、先ほど委員が言われた分布図があるのかとか、元々建てる位置はどういう候補があるのかということを決めておかないと、ここで話をしたとしても、現状のことでしか話ができない。基本的には子どもたちのことが大事であり、距離が近いから良いとか悪いとかでなく、地域性も活かしていかなければならないと思う。簡単に廃校というわけにもいかないし、建て替えも良いかと言えば、地域や周りの反対もあるかもしれない。慎重に話をしないといけないと思う。

個人的には地元の学校であるため、残してほしいという気持ちはあるが先々を考えていくのであれば、コンパクトにしていかなければならないと思う。私は、廃校にして、第一中学校と第三中学校に編入すべきと考える。そうすると第二中学校から第一中学校及び第三中学校までの距離は同じくらいであるため、早い段階で校区の見直しをしていかななくてはならないと思う。そういったことは浜田市の仕事になると思うが、第二中学校を廃校にして、第一中学校と第三中学校に分けるか、または先ほど話のあった中央中学校にして、

中学校を3校か4校に絞っても良いと思う。統合した場合には補助が出るため、そういうことも含めて考えるとそちらが良いかと思う。先々のことを考えるのであれば、早い段階で進めてもらった方が良い。第三中学校の方が第一中学校よりも新しいため、新しいところにどんどん移していかないと、どこもかしこも建て替えることはできないため、現状であるものを大事にして、残った跡地については浜田市が考えることになる。

今の話の中でいくのであれば、第一中学校と第三中学校に分けてもらい、第四中学校については地域のこともあるため、前にも話した小学校と中学校の小中一貫校という形も含めて考えてもらっても良いかと思う。以前統合した、国府小学校も距離的なところでもめているところもある。そういった問題もあるため、美川地区の方の意見を聞いた上で、美川地区は小中一貫校、第二中学校は廃校にして、校区を分けないといけないということも踏まえて、第三中学校と第一中学校に行ってもらおうということを考えていかなければいけないかと思う。個人的には第二中学校には残ってもらいたいと思う。

委員

難しい問題であるが、財政の問題は置いておいて、子どもがきちんと通えて、しっかり学力をつけられるということを最初に考えるべきであると思う。第二中学校をやめて、第一中学校と第三中学校に分けるということになったら、喧々諤々として子どもも大変不安であろうし、私としては賛成できない。この先、どの様に生徒数に変化していくか分からないが、ここ10年、15年くらいはそんなに変動はないのではと思う。

事務局

教育委員会が第二中学校は老朽化しているのでやめた方が良いという考えがあるのか。

第二中学校の校舎自体、老朽化が進んでいることが現状としてあるため、今のままではいけないと思っている。

委員

将来、老朽化して使えないということが必ず来る。その時には、新規に建設するという財政的な余裕は全くないのか。

事務局

建設計画にもよるが、10年間で学校を建てられるとしても1つか2つであるという気がしている。10年間で3つも4つもというのは難しい。

委員

それは小学校と中学校を合わせて2校ということか。

事務局

そうである。

委員

第一中学校も校舎は相当古い。

事務局
委員

第一中学校の建設は昭和 54 年くらいである。

第二中学校の次くらいに古いと思う。2 回目の時にも話したが、古い学校へ移ってもそこも老朽化してくるため、統合も考えることも必要でないかと思う。建てる場所もないということもあるが、子どものことを考えるのであれば第一中学校と第二中学校の真ん中の方にあっても良いと思う。

前の石見小学校の際にも話があったが、石見小学校は規模的に考えて、廃校ということは考えられないかと思うが、建て替える場所がないのであれば廃校にせざるを得ないかと思う。以前の審議会で他の委員が言われた、山が削れるのであればそこに移しても良いのではないかという案もある。今回、4 回目で審議が終了する可能性もあるという話もあったため、詰められるのであれば詰めてここは粗方の見解を示しておかなければいけないと思う。案で考えるのであれば、その案が 1 番近いかと個人的には思う。

松原小学校の松原地域の児童を完全に第二中学校に移し、今、第二中学校が 149 人で増えたとしても 150 人近くであり、この 5 年先々数字が上がらないということである。そうした場合、同じ松原小学校の児童が第二中学校に来れば、同じ友達が同一中学校となる。それについても良し悪しがあり、どちらの割合が大きいのかは分からないが、悪いと感じるのはごく一部の児童についてであると思うし、そういった児童については親がサポートしてあげることもできる。

また、松原小学校区に県営住宅が新設されるため児童数も増えてくると思う。その場合、松原小学校も早めに校区を分けてあげた方が良い。第二中学校を廃校にしないのであれば、松原小学校と紺屋町の児童を第二中学校にすれば、粗方、人数的な割合もクラス数も確保できるのではないかと思う。それができないのであれば、廃校という道筋も考えるべきである。

会 長

ありがとうございました。色々ご意見をいただいているが、中学校は小学校以上に問題が大きく難しい。先を急がず、ゆっくりと意見を出していただきたい。

委 員

浜田市は海に近い分、第二中学校は海風がまともに当たり、写真で見ると老朽化が激しい。そんなに年数が経っていなくてもこんなに傷むのかと思った。やはり長く使える場所であったり、災害時のことも考慮したり、色々なことを考えて決めないといけないと思っている。

委員

本日の会議でも委員方より色々なご意見があった様に、複合的な要因で人数も要因の1つであるが、距離や子どもの利益、文化や伝統ということもある。今後、どのくらいのスパンで考えるのかということもあるため、今回出た意見だけでも整理するべきである。例えば今回出ている第二中学校、第四中学校について、論点になるところが少し変わってくることもあると思う。その中で1番、例えば先ほどの財源の話だと、小学校で1校、中学校で1校というのが建て替えの現実的なラインであるということであれば、建て替えというのは同時期にやるのは難しい。

先ほど他の委員から、第四中学校の小中一貫校としての建て替えと、第二中学校と第一中学校が統合して中央中学校にということと一緒にして、同時に第四中学校と第三中学校の校区も整理して、今の場所ではなく、より適切な場所にという意見があった。

距離のことを考えると、分布が分からないので人口的にはそれほど問題はないと思うが、地理上で見ると中学校のある位置も海沿いに集中していて、統合した時に、遠くなる生徒たちがいた場合にどうするのかという問題も出てくると思うため、統合の際に建て替えを行うのであれば、今住んでいる生徒たちにとってより適切な場所に移動して建て替えるという案が望ましいと思う。

ここでの建て替えというのは、現地に建て替えることを前提で議論されているのか、それとも新たな場所に移動して建て替えるということか。

事務局

今の学校の場所にもよる。今回協議をさせていただいている学校の中では、美川小学校については建て替えをする方針であり、その際に議論したのは第四中学校と美川小学校を解体したところに美川小学校を建設すると認識している。

委員
事務局

場所も移動して新たな場所に建てるとということか。

第四中学校と第三中学校が一緒になって、第四中学校を解体したところに美川小学校を建てると認識していた。

石見小学校については現地建て替えが難しいということで、近隣地でということで協議をしている。

新しい場所で、造成も含めて土地を取得するとなった時に、例えば、第三中学校のところは、高く盛った関係もあるが、用地確保が3億7千万円、造成が11億円であり、浜田東中学校は用地確保が2億2千万円、造成が5億8千万円である。また、三階小学校は用地確保が7千万円、造成が4億円であり、原井小学校は、用地確保が

2億5千万円、造成が5億3千万円である。造成経費については、財源措置はない。建物を建てる前でそれだけかかる。土地が安くあればそれが1番良いが、新しい場所を確保するというのはかなり経費がかかる。それに加え、建物が20数億円かかる。

委員
事務局
事務局

資料にある概算の予算は建物だけであるか。

そうである。

石見小学校の議論の際に、学校が統合になった時には、建物の建築については国から補助が出るという話をしたが、先ほども言った様に、造成については統合であったとしても、全く補助がないため、浜田市で全額払うことになる。

委員
事務局
委員

そもそも中学校を新しく造る土地などないと思う。

校庭の広さも必要である。

第二中学校は老朽化が激しいということであるが、例えば現地建て替えをした時に、やはりあの位置であったから老朽化が想定したよりも早く進むことも十分考えられる。

事務局

建て直した時に40年で想定していたのが、30年で建て替えとなる様な可能性はあると思う。しかし、それを言ってしまうと、どこも何もできないことになる。

委員

第二中学校は老朽化でなく劣化である。老朽化しているのは第四中学校とか雲雀丘小学校等である。

委員

高い校舎でもすぐに劣化してくる。第三中学校や国府小学校は海が時化た時には窓ガラスに潮がたくさん付く。

委員

国府小学校について、浜田市が防砂対策で杉の木を植えたが、結果的に防砂になっていない。植林して2、3年経ったら防砂の効果があるということであったが全く効果がない。

会長

それぞれご意見を聞く中で、やはりこれから子どもたちのことを考えてということ優先されていた。建て替えをするにしても、財政的なものが絡んでくる。非常に難しい問題であるが、審議会においての方向を出していかななくてはならない。廃校にして統合する場合、距離的な面、あるいはコストの面で大変な作業になると思うが、どう方向付けたら良いかという気持ちである。今日は、最後の回にしたいと以前から申し込んでいるが、あまり先を急いでもいけないため、委員方の意見を聞きじっくりと進めていきたい。

委員
会長
委員

結論を出したいのか。

結論を出していただいても良いが、意見があれば願います。

財源を心配して学校の建て替えといったことを考えなければい

けないのかという思いがある。ここは学校統合計画審議会であるため、財源のことでなく、学校をどうするかということを考えなければならない。そういうことを抜きにして、第二中学校についても考えていくべきである。ある程度、生徒数がある学校を地域からなくしてしまうというのも納得できない。なるべくなら、今ある中学校は今あるところにおいていただきたい。その方が、学校の適正配置としても良いと思う。第四中学校の場合は話が別であるが、第二中学校の場合は、現状の場所に建て替えた方が良いと思う。

会 長

ありがとうございます。ご指摘があった様に、この審議会が財政的なことまで考えて協議するのでなく、学校をどうするかということだけを考えて協議するべきであるという意見をいただいた。

繰り返しになるが、第二中学校は現在 150 人くらいの生徒数であり、廃校にしなくても、現状でやっていけるという考え方もできる。私は地理が分からないが、統合した場合に、ある程度の距離が出るのであれば、廃校せずに現状での建て替えが望ましいと思う。

委 員

150 人の見込みの人数が今後減ることがないと思うため、廃校ではなく、今のところで単独の建て替えが良いと思う。

委 員

言われる様に、先を見据えてということも考える必要もあるかもしれないが、現状維持で止むを得ないと思う。

会 長

それぞれ委員方に現状維持あるいは、廃校して編入等、将来のことを考えた意見を出していただいた。全体の 1 つの流れとして、第二中学校という歴史ある中学校を存続するため単独で建て替えるべきとの意見が多い様に思う。財政的なことも考えなければならないが、一旦置いておく。

冒頭で事務局から話があった様に、松原小学校については次期計画時に検討するという事になったが、色々そういった問題等も出てくるわけであるが、とりあえずは第二中学校については単独の建て替えをするという方向で良いか。

各委員

全会一致で承認。

委 員

第二中学校の建て替えの条件として校区の見直しも含めた上でということをお願いする。

会 長

ありがとうございました。では、第二中学校については、(2) 単独建て替えという方向で意思統一させていただくので、よろしくお願ひする。

それでは続いて、第四中学校についてである。これは、資料 5 でも繰り返しお話いただいている。生徒数 37 人であり、校舎も老朽

化が進んでいる。このことについて、それぞれのご意見をいただきたいと思う。

委員

前回までは美川小学校と第四中学校を一貫校にするということをお話していたと思うが、中学生が部活動をするために第三中学校に流れているという情報もあったため、地域としては存続して、学校が近くにあった方が良いとは思いますが、結局は生徒が第三中学校に流れてしまったというのであれば、あまり意味のないことかと思う。

美川地区は、幼稚園なども一緒に運動会などをされていると聞いているため、学校が真ん中にあることで、町の雰囲気が良いと思う。その辺で、まだ自分の中で意見がまとまらない。色々な側面から考えなければいけないのかと思う。

会長

ありがとうございました。今、委員から意見があったが、色々な面を十分考慮するべきであろうということであった。

委員

第四中学校は地域のことを含めて考えると、小中一貫校が望ましいと思う。部活動に関しては、部活動ごとに違うと思うが、野球で言えば第四中学校は、第三中学校や金城中学校と合同チームとなっている。また、公民館を加えた複合型の一貫校というものも面白いかと思う。面白いという言い方は悪いが、もう少し違った形の教育ができるのではないかと思うし、地域とのつながりも、また密になるのかというところもある。文部科学省から出されている資料の内容を見ると小規模校の学校については、地域を含め密着した形の中のコミュニティースクールということも掲げられているかと思う。

建物は老朽化しているので解体しなければならないと思うが、廃校にした場合第三中学校から第四中学校への距離は5、6キロメートルくらいであり、少し遠いと思うし、一般の道と違って山間地ということもある。

また、弥栄町の方には失礼であるが、今後また少子化が進む中で、今度は弥栄中学校が維持できない状況になった時に、第四中学校へ編入となった場合にはスクールバスを出して通うという考え方もあるのかと思う。第四中学校がなくなると第三中学校へ編入になると思うが、かなり距離がある。そのため完全な複合施設に変えて、地域の受け皿的な施設にしてもらえたらということで、廃校兼複合施設化という形で進めてみては良いのではと思う。公民館と小中一貫という建物として、できるか分からないがそういうものも良いかと思う。

委員 生徒数が 37 人であり、建物も老朽化で確かに古くなっていると思う。意見があった様に、部活動について 37 人では自分のやりたい部活動もできなかつたりすると、第三中学校へ編入したいという人数も多いかもしれない。個人的なことであるが私の子どもが、美川幼稚園に通っており、この間も運動会を美川幼稚園と美川小学校と第四中学校でしたのだが、その様な運動会は中々ないと思う。美川地区はすごく仲が良くて一致団結しているため、あの光景をなくしてほしくないという思いが強くなる。そのため個人的には、廃校にし小中一貫にして複合施設とする形が良いのではと思う。

会長 ありがとうございます。美川地区については美川小学校の時に色々と話が出たが、やはり小中一貫校として残した方が、地域とのつながりという面も望ましいのではということであった。

委員 確かに基準に照らし合わせると生徒数もずいぶん少ないし、このままにしておくわけにはいかないと思う。運動会を一緒にされたりという話を聞くため、浜田市の中で美川地区という特色のある教育をしている地区をつくることは、大切なことではないかと思う。統合施設として、地域の小学校も中学校も幼稚園も集まることで、新しい環境、地域が出来上がるというのもそれはそれで良いことではと思う。旭小学校も統合されているところであるが、やはり地域が廃れていくのも目に見えて分かるし、果たしてそれが本当に良かったのかと今でも葛藤しているところである。美川地区は新たなケースとしてというか、こういうカラーで地域運営をしているというのを見せるケースとして、複合施設的にするのも 1 つの手ではないかと思う。

委員 第四中学校は難しい。廃校は止むを得ない。この人数は中学校としては適正な規模ではないと思う。しかし、廃校にして第三中学校へ編入というこの考えも納得しかねる。先ほどから言われる様に、美川地区の地域性があり、美川地区の中から学校がなくなるということは賛成できない。単独建て替えということはまずないため、廃校にしてということになると、先ほどから言われる様に幼稚園、小学校、中学校を一緒にした小中一貫校にした方が良い様な気がするが、それで学校の教育が成り立っていくのかどうか、自分では少し考えられない。自分の気持ちとしては考えがまとまらない。

会長 小中一貫校というものの事例として、どの様な長所や短所があるかということについて事務局は把握しておられるか。

事務局 小中一貫校というのは、単純に小学校と中学校が同じ屋根の下に

あるということであり、教員も小学校と中学校で別々に存在するため箱物は1つになるが、教員の数や教室の数というのは全く変わらない。

事務局

確かに共有できる部分とすれば体育館とかグラウンドくらいであると思うが、ただそれは中学校と小学校で体育が違うため調整が大変なところが出てくると思う。施設のなところを考えればそこがメリットかもしれない。

また、9年間の教育ということになるためそこはメリットになる。ただ、先ほどの話でもあったが、人間関係が固定化するというデメリットがある。美川小学校も第四中学校もどちらも小規模校であるため、一緒にした時に生徒数が幅広いものができるかということ、その辺のところについてはどうかと思う。

委員

一貫校にしたところで、部活動の人数が今までと変わるわけではないし、何か意味があるのかと思う。しかし、廃校というのも忍びない。

事務局

以前、美川地区の方と話をした際に、地域の方の思いが保護者の方の思いと違うということ言われていた。何が何でも学校をなくす様なことがあってはならないという地域の方の思いを保護者の方に伝えると、生徒数のことがあって、例えば野球部も第四中学校と金城中学校が一緒になってやっており、どうしても単独での部活動というのは限られてくる。そうすると、選択肢が少ないということで、大きな第一中学校や第三中学校へ行くという事例があるというのは現実問題としてあるかと思う。

それから、先ほど言った人間関係のところ、良いケースもあるが、色々ともめているケースも少なからずあるため、同じメンバーが続くことが不安だということで、デメリットとなる。良い方と言うと、先ほども言った、長いスパンで教育目標を掲げてそれに向かっていくというメリットがある。学校としての見方と、地域としての見方がある。私も先日、美川地区の運動会を見に行き、良さの部分も感じた。どちらがどうかというのは中々難しいと思った。

委員

先ほどの委員と同じで、非常に難しいことだと思う。1つは、今37人しかいないという学校の状態で、教育のメリットのデメリットはどういうものがあるのかとか、子どもたちはどう思っているのか、あるいは教員はどうか、地域の人はどうかということ少し知りたい。先ほど小中一貫校という様な話も出たが、現在も児童生徒合わせて99人ということで100人足らずである。実際には、小学

校と中学校の教育課程があつて、同じ屋根の下でも別々のことをや
つており、一緒にやるものではない。従つて、小中一貫校にすること
が必ずしも良いことだとは言えない。

1学級11人で、活発な授業になるのかと思う。そういうところで
言えば、やはり人数の多いところへ持つて行った方が良いと思う
が、地域性ということがあり、地域の方々は、第四中学校の生徒が
1人になつても廃校には反対されるのではと思う。また、保護者の
考え方と地域の考え方は乖離しているのかもしれないが、あくまで
第四中学校の生徒や保護者のことを考えて進めるべきである。

委員

私もほぼ同じ意見である。やはり、人数が少ないというのは部活
だけでなく、教育の面でもデメリットがある可能性がある。教員
の数も少なくなるし、学べる専門性というのが損なわれる。生徒数
が37人というのは他の学校よりも著しく少ない人数であり、それ
が今後増える可能性もあまりない。それを小中一貫校にしたとして
も、小学校と中学校では教育指導要領は全く異なるし、指導体制も
異なるため、交流ができたから、小中一貫校にしたからといって教
育面のメリットを補えるというものではないと思う。

地域の方の視点と保護者の方や子どものメリット、デメリットが
違うのであれば、私はやはり子どものメリットを最も重視する必要
があるのではと思う。地域の方が交流の場になっているため、学校
があつてほしいという思いは十分に分かるし、それによつて複合型
施設とするという様な方法は賛成するが、そこに生徒を入れなけれ
ばいけないということではないと思う。地域の交流のために、教育
の質や部活動といった学生活動に影響があり得るのをそのままに
しておくというには私はあまり賛成できない。老朽化した校舎は解
体をして編入するという意見である。

委員

先ほどからも意見がある様に、生徒と保護者の気持ちを最優先し
て結論を出していくべきである。ただ、自分が現在保護者でもない
し、保護者に意見を聞いたこともないため、こうしたら良いという
ことは言えない。

委員

美川小学校の時にも議論したが、今回も他の委員からお話があつ
た様に、美川地区は非常に特色がある。色々な活動や事業展開をさ
れており、廃校というと大変なことであると思う。美川小学校の話
の時にあつた様に、やはり複合施設化を踏まえて建て替えをして、
小中一貫校とする方法もあろうかと思う。私も地域や保護者の考え
を尊重するべきであると思う。

会 長

ありがとうございました。それぞれご意見をいただいたところであるが、委員方から美川地区は非常に学校が地域と密接であると繰り返しあるため、何か全体の中であれば願います。

委 員

おそらく単独の建て替えというのは相当難しいだろうというところで、現状で第三中学校や第一中学校に生徒が流れているということであると、今後の生徒数推移についての資料があったが、それが見込みよりも大幅に減少することも考えられると思う。

浜田市が合併した時の目的というのは、もっと色々なことをまとめてコンパクトにして、財政を健全化していくということもあったと思う。旧那賀郡は統合が進んでいるため、旧市内だけ例外にすることもできないと思う。

会 長
事務局

ありがとうございました。事務局として何かあれば願います。

先ほど出たが、中学校と小学校の違う点としては、教科担当制ということがある。小さい中学校では教員のやりくり非常に苦労する。文部科学省の資料にもあった様にそれ相応の教育環境が望ましいというのはあると思う。それを判断の材料の1つにできるかについては難しいが、そういった現状がある。

委 員

基本的には地域的事情を踏まえた上での小中学校の配置になると思う。小規模校の在り方についても今後、学校教育、部活動のこと含めて考えなければならない。小規模校では授業ができていないのかと聞いたら、小学校の話では授業を皆さん十分頑張っておられる。地域性のことを考慮するのであれば、複合型ができるのならそうした方がよい。

また、これから美川地区の人口が増えないというわけではない。美川地区にしかできない教育があると思う。そういうことも踏まえたら、勉強だけでなく社会的学習も大事と思う。

建物自体は解体せざるを得ないと思うが、解体するのであれば新しい教育環境を試みても良いのではと思う。タイミング的に、そういうことができる地域はこの美川地域である。それが、10年先になるかもしれないが、声を上げて複合施設をやってみても良いのではないか。

それから地域と保護者の話し合いも当然大切であると思う。統合するところであれば必ず話し合いはされているとは思いますが、統合が固まった上で話をして、可能であるのなら複合施設化を進めてみてはと思う。

また、統合でいくのであれば、美川小学校の話をした時に、美川

小学校を公民館と複合化しても良いのではないかという意見に皆さん賛同されている部分もあるし、やはり地域性のことが最初にあった。第四中学校がなくなるのであれば、美川小学校のことについての話がまた変わってくることになる。地域のことを考えるのであれば、小中学校合わせて考えて、新しい学習の仕方ということについて進めていっても良いのではと思う。

委員

地域教育や独自性の教育というのは将来的に非常に重要になってくるかもしれないが、教科制ということを見ると、今のところではデメリットがあるということが否定できない。統廃合であれば、保護者や中学生に対する調査はこれまでされているのか。また、今後行う可能性はあるか。

事務局

統合という方向性が出た場合には、当然、住民や生徒、保護者に意見を聞く場は設けることがある。

委員

方向性というのは決定段階ではなく、議論が出た段階で調査をするということか。

事務局

そうである。

委員

今ここでの話というのは、それぞれ委員の立場から地域の方はこうではないか、それから保護者や生徒はこうではないかという推定である。今、言われた様に想定されているのは「地域にどうしても残したいと思っているのではないか。」ということであるが、できればそういった論拠となるデータ収集を、住民調査という形で保護者や生徒、地域の方にされると統合に対する地域の方々、保護者や生徒を含めた意見が分かるため、そういったことを基にして話していく方が生産的かと思う。

考え方も色々あって良いし、地域性がとても大事であるとは思いますが、地域性を発揮するために、これだけ生徒数の少ない教育の場に中学生を置いておかなければいけない理由になるとは思わない。地域の交流も必要であるとは思いますが、それが中学校教育としてやらなければいけないことなのか、それをやるのが教育の全般に対する影響がないのかということを見ると、教育の大きなところというのは、ある程度指導要領で決まっているところがあり、どのくらいの質をもって対応するのかということである。先ほど意見があった様に、教科制というのは専門の教員が多くいて選択制がある方が質が上がるということについても、これまでの調査結果からも言われているため、小学校以上に中学校はある程度の規模であることが教育の質を担保するために必要であると考えられている。

<p>会 長 委 員</p>	<p>地域の活動を否定するわけではないし、そういった特色というのは大切にしていけるべきであると思ふ。一般論になってしまうが、今の 37 人という生徒数は今後減っていく可能性もある中で、どうなるかわからない教育の在り方として、地域の立ち上がりのために生徒を残すというのは、私は反対である。</p>
<p>事務局 委 員</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>関係ないかもしれないが、現在、第四中学校に入るべき生徒のうち、部活動やその他の理由で校区外通学している生徒は何人くらいいるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>第二中学校も 150 人足らずしかいないが、部活動の関係で第一中学校へ校区外通学している生徒が多いということを知っている。</p>
<p>委 員</p>	<p>確かにそういう事例がある。</p> <p>資料にある在籍生徒数よりも、実際には多い可能性があるということである。第二中学校もサッカー部がないから第一中学校に行くという生徒がかなりいるらしい。</p>
<p>委 員</p>	<p>前回 3 回目の資料 1 について、差し替えをしていただき数字の訂正を行ったところがある。学校別の年齢別の表の、上から 2 番目の表の太線で囲ってあるところについて 12 歳、13 歳、14 歳のところが、37 人という現状である。そこから下の 11 歳以下は、実際の第四中学校区の住民票上の生徒の数であるため、これが 11 歳が 14 人、10 歳が 9 人、9 歳が 6 人ということで、本来第四中学校に行くべき人数である。12 歳、13 歳、14 歳の人数については本来行くべきである人数ではなく、実際に行っている人数を書いている。今後、11 歳以下の子どもが校区外へ行く可能性があれば、更に減るという様な考え方もできると思ふ。</p>
<p>事務局</p>	<p>11 歳以下については実際に住民票から算出したデータであり、12 歳から 14 歳は実際に行っている数である。その差をとれば校区外通学の人数は出る。</p>
<p>委 員</p>	<p>部活動を理由に校区外にして、2 年生で辞めて他の部活動にしたり、続けたりしている。浜田東中学校のことであるが、2 年生の時に部活動を続けるか、続けないかということを知りたい。</p> <p>指定された校区内でそういったことをされることは問題ない。強い思いを持って、「第二中学校にサッカー部がないから第一中学校に行きたい。」という生徒について、原則は不可である。</p>
<p>委 員</p>	<p>自分の現状の部活動を辞めて、浜田市内のクラブチームに専念し</p>

たいという生徒についても、学校によっては選択制ではあるが、基本は部活動に入らないといけないことになっている。その辺を踏まえて、部活動をしていない生徒の保護者に配慮されるケースもあると聞いた。

今回、第四中学校と金城中学校が島根県総合体育大会に行ったが、人数が多い、少ないとか学校で部活ができる、できないといったことではなく、やりたいからやる生徒がいて、そこで輪ができる。学校にそのやりたい部活動がなくても、私は良いかと思う。確かに部活動のこともあるが、第四中学校をどうするかということ考えた時には、先ほどもあった予算のことも取っ払って、あくまで地域性を考えて廃校にするのか統合するのかということを選択すべきであると思う。

今回ではっきりしなければいけないのかということになってくるが、文部科学省の資料にも社会教育施設や、公民館との複合型施設も効果がみられるとある。実際に廃校ということは決定であると思う。それを統合にするのか編入にするのかということである。データがあった方がやりやすいというのもそれが理由であると思うが、ここで求められているのは、通学条件などを含めた中での安全面とか、部活動とかを含めて小規模校の在り方についてであるとかの答えを導き出す、どう答えを出すかということである。

教育的な問題については浜田市が考える問題であり、答えが複数あっても私は問題ないと思う。どれが最終的に選択されるかは、浜田市でまた考えられると思う。

初めの協議事項の中には小中一貫校の話はなかったが、文部科学省もそういった施設も可能であるとあるため、出来るのであれば試してみてもどうかと思う。私が思うのは、ここで答えを出すか出さないかということよりも、答えがいくつ出るかということであると思う。先ほどもあったが、色々な意見が出て当然であると思う。

今の協議事項の中身で言うと、通学区域の見直しと、地域事情と地域的拘束のことを言うのであれば、先ほども言ったが、この美川地域は第三中学校から5キロメートル近くあると思う。それも含め、平坦な道でないので雨や雪が降った時の心身的ストレス面も感じるのではと思う。6キロメートルないのでスクールバスは出ない。子どもたちのことを考えるのであれば、廃校になるのであれば、小中一貫校でも良いのかと思う。何がどうであるとかここで話しても、見識者の人数も少ない。どういう在り方でいけば良いのかとい

会 長

うことを、ここでは出さないといけないと思う。私は複合施設で進めても良いのかと思う。

ありがとうございました。皆さん色々ご意見をいただいたところである。美川地区は特色ある活動をしてこられたということで、美川小学校については複合施設も踏まえて建て替えをとという方針であった。第四中学校についても、現状 37 人ということで先ほど委員からも、1 学級 11 人前後で授業ができるのかという話があった。生徒数が非常に少ないという心配がある。それぞれ全体的な意見を踏まえた中で、やはり第四中学校については小中一貫校というものが望ましいのではないかという意見が出てきているわけであるが、基本的には地域や保護者、生徒の考えが中心でないといけないが、この審議会の中では皆さんの意見を踏まえた中で、一応そういった小中一貫校もしくは複合施設が望ましいと感じたところであるが、いかがか。

事務局

資料 5 にある様に、廃校にして第三中学校に編入ということ、あるいは単独で建て替える場合ということがあるが、色々なご意見を聞く中ではやはり、小中一貫校という声が非常に強かった。

1 つ質問がある。小中一貫校というのは実質的な単独建て替えと同じイメージで思っているが良いか。

小中一貫校というのは、今の場所で第四中学校を残すという形であると思う。第三中学校への統合ではなく、第四中学校の場所に建物を変えて残すという意味で良いか。

委 員

美川小学校と第四中学校に入るべき児童と生徒を 1 つの入れ物に入れて、特別な教育活動を含めてするということである。

事務局

実質的に今と変わらない 37 人の状況での中学校生活であるということを確認したかった。

委 員

例えば、運動会を一緒にやっているが、その様なことが、小学校の教員と中学校の教員が協力して計画を立ててやることができる。教科に関してはできないが、教師同士の相互乗り入れができるかもしれない。

事務局

資格が違うため無理である。校長先生はできるかもしれない。

委 員

松江市の八束学園が小中一貫校であるが、校長先生は 1 人である。

事務局

教科担任の先生とかは併任することが中々できないため、実際には変わらない。そういう面での小中一貫校というイメージを持っておられての小中一貫校であるのかを確認しておきたかった。

委 員

確かに実質的には変わらない。一貫校とすれば子どもの数が少な

いたため、全体の数は増えるのだが中学校1クラスの数で言えば少ない。弊害がある。

会 長 私はその様なことは前提と捉えて申したが、事務局からお話があったことについてそうではないという意見があれば、願います。

委 員 建物だけをきれいにして現状維持ということであるかと思う。

会 長 委員の皆さんは地域の思いということを非常に感じておられる。

事務局 小中一貫校については、教育のデメリットという声もあったため、改めて確認させていただいた。

委 員 数には勝てないため、多数意見でまとめるということであれば仕方ない。

委 員 中高一貫校くらいになると、カリキュラムを組み直しているのではないか。

委 員 中学校、高等学校であれば両方の免許を持っている教員も多いため、教員数の削減も考えられる。

事務局 中学校1種、高校2種といった形で取得できる。

委 員 小学校については資格が全く異なるため、9学年でのメリットはほとんどないと感じる。私立学校であればまた違うが。

会 長 専門的なところは理解できない部分があるが、どうであろうか。今日結論を出すのは難しい。全体のまとめをする予定にしていたが時間も過ぎたため、今日を最終回とするのは難しいと感じる。この第四中学校の案件については、今一度考えていただき、次回で最終決定ということにさせていただくということでしょうか。

委 員 意見が2つ出たという結論ではいけないのか。廃校は廃校で、共通の見解で、そして廃校した後には現状のもので小中一貫の教育施設を新築する。もしくは、それが難しい場合には統合を考える。

議論の時間を延ばしても、この両方の意見がまとまることはないと思う。それぞれの立場というのは全く異なるため、もし可能であれば、地域性を活かした小中一貫校という形での建て直しというのが第1案で、難しい場合には第三中学校への統合という形で、結論としては廃校にするという形でいかがか。

会 長 今、委員から提案をいただいたが、その様にさせていただいても良いか。

事務局 今の小中一貫校となると廃校ではない。

委 員 建て直すため壊すということで、廃校は壊すという意味である。小中一貫校の意見の方もそうであると思う。

事務局 実際には建て替えである。偶然、小学校と中学校が同じところに

あり、それが1つになって建て替えになるということで、中身は変わらない。廃校ではなく、美川小学校と第四中学校という看板はそこに残る。廃校であるなら名前も完全になくなる。

委員
委員

私は大勢のところで学ばせてやりたい。

本音はそうである。37人くらいのところを単独で置いておくより、大きなところへ行かせてやりたい。その代わり、地域から子どもたちがいなくなるということを考えると忍びない気がする。

委員

そうなると、美川小学校も第四中学校もないという話で想定しておかないと、最初の時点で美川小学校があるという想定で今のこの話があると思っている。言われることも確かであると思うが。そうなると、美川小学校も第四中学校もないという形の話も進めていかなければならない。

事務局
委員
事務局
事務局

それは切り離して考えて良いと思う。

美川小学校は残す。

小学生は歩ける距離もあり、中学生と違うところがある。

先ほどもあった様に、学級担任と教科担任という部分でも小学校と中学校で違う。

委員

小中一貫校にしてメリットがないのであれば、やはり統合した方が何かと良い気がする。

会長
委員

事務局は、先ほど委員から提案された内容ではどうか。

事務局の言っていることは分かる。同じところに小中一貫校として建て直すのではなく、単独の建て替えになるということである。結論が(1)と(2)の両方になるのであれば、結論が出ていることにならないということである。

事務局
委員

そうである。

これは必ずどちらかでないといけないのか。意見が割れたため、それぞれ論拠としてはこうであるという、議論の形の結論にはできないのか。

事務局
委員

できないことはない。

おそらくそれだけ難しい話であると思う。ここで多数決をとってどちらか多い方というまとめ方はできると思うが、そうすると、少数派の方の非常に重要な意見というのがなくなってしまう。両方の意見があるということが、この審議会の中で重要な結論であると考え、両方の意見及びその論拠が審議会として出される結論の在り方が良いのであれば、2つ残す方が良い。それか無理やりどちらかにしてしまうかである。

事務局 審議会の意見として併記しても致し方ないかと思う。その審議会の答えを、最終的に答申書にしてもらい、その答申を受けた後に教育委員会でそれを基に考えていかななくてはならない。その中で、住民の意見も聞いていかななくてはならない。その時に、統合ありきなのか、建て替えるのかというところについて最後は教育委員会としての方針を出さなければいけないと思っている。そこは教育委員会に任せてもらうことになる可能性があるということになるが、良いか。

委員 地域のことを考えると結論が出し辛いという課題であると思う。

委員 付け足すとすれば「2案あるが、こちらが望ましい。」という様な表現ではどうか。

事務局 どちらが上であるということまで出ていけば分かりやすいが、全く同等であると言われると難しい。最後はそうなっても仕方がないという結論であれば、どうしても決めてくださいとは中々言い切れない。

委員 ここで地域性の問題を判断しようと思っても、美川に住んでおられるにしても、保護者や子どもたち、地域の人全員の意見は分からない。もしかすると、大きな学校に行きたいと思っている子どもが多いかもしれない。その判断材料がないため、意見を出すのに地域のことを考えても難しい。

事務局 当然、審議会はこう考えられたということで教育委員会で説明会に行くため、そこで実際に地域の声はどう上がってくるかというところである。そこで、審議会の答申が出たものと、地域の声を受けて最終的に教育委員会でまとめた最終の計画が変わることもある。

委員 ある程度方向性を決めておいて、この様に方向性が出たが、美川地区の方はどう考えられますかというのも、次の段階であるということである。

事務局 前回の審議会でも話があったが、例として、後野小学校も佐野小学校も石見小学校へという答申が審議会が出たが、佐野小学校は三階小学校へ、後野小学校は石見小学校へという地域の意見が強く、結果的に分かれることになった。審議会としてはこう考えていたが、地域の声としてはそれとは違った意見が強かったということで、教育委員会の計画では地域の意見を反映する形となった。そこは、審議会としてはこう考えるが、後は地域でどう言われるかで結果が変わる可能性もある。

会長 色々ご意見が出ているところではあるが、答申書の文言を「望

各委員 会 長	<p>ましい。」という表現にさせていただくということにさせていただいても良いか。</p> <p>全会一致で承認。</p> <p>ではその様に決めさせていただく。よろしく願います。</p>
3 その他 会 長	<p>本来なら今回の会議で全体のまとめと想っていたが、もう2時間半経ってしまったため、全体のまとめについては別に行うということによろしいか。</p>
事務局	<p>この後、答申書に基づいた方向性の話を最後にまとめた上で終われたらと考えていたが、このままだとどのくらいの時間がかかるかわからないため、今日はここまでということであれば、また次のところでお願います。</p>
委 員 事務局	<p>答申書の素案はどうされるのか。</p> <p>諮問事項が、1-(1)、(2)と2と全部で3項目あるが、これについて次回で最終確認を一緒にいただいて、それを基にこの答申書の原案を事務局で作成する。原案を作った後に、会長と副会長とで調整させていただき、案ができた段階でもう一度委員方に集まっていたら、中身について確認してもらいたいたいてもらう。というところが最後であると思っている。</p>
会 長	<p>その後、会長から石本教育長に答申書を渡すという流れになると思っている。</p> <p>事務局から説明があつたが、今日のまとめ及び諮問事項について次回の審議会で協議するということが良いか。</p>
各委員 会 長	<p>全会一致で承認</p> <p>それでは本日の審議会を終了する。皆様ありがとうございました。</p>